

200924022B

厚生労働科学研究費補助金
がん臨床研究事業

進行卵巣がんにおける化学療法先行治療の
確立に関する研究
(H19 - がん臨床 - 一般 - 028)

平成19年度～21年度 総合研究報告書

研究代表者 吉川 裕之

筑波大学・大学院人間総合科学研究科
婦人周産期医学 教授

平成22(2010)年 3月

目 次

I. 総合研究報告書

進行卵巣がんにおける化学療法先行治療の確立に関する研究 -----	1
吉川 裕之	

II. 研究成果の刊行に関する一覧表 -----	34
--------------------------	----

III. 研究成果の刊行物・別刷 -----	37
------------------------	----

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）

総括研究報告書

進行卵巣がんにおける化学療法先行治療の
確立に関する研究

研究代表者 吉川 裕之 筑波大学大学院人間総合科学研究科・教授

研究要旨

進行卵巣がんにおいて化学療法先行治療を確立するために、第 II 相試験（Feasibility Study、JCOG 0206）に続いて、第 III 相試験（JCOG 0602）が進行中である。第 II 相試験（JCOG 0206）については最終解析を行い、論文発表を行った。第 III 相試験においても試験デザイン、意義について論文発表した。平成 22 年 9 月に中間解析を実施し、続行が決定された。第 III 相試験は目標症例数 300 名に対し、平成 22 年 2 月 28 日現在 230 名の登録となっている。予定登録期間の 3 年を経過したため、延長を決定した。モニタリングでは特に問題なく進行している。

研究分担者

勝俣 範之
国立がんセンター中央病院
薬物療法部薬物療法室・医長
恩田 貴志
国立がんセンター中央病院
婦人科・医員
嘉村 敏治
久留米大学医学研究科
婦人科学教室・教授
八重樫 伸生
東北大学医学系研究科
婦人科学分野・教授
高野 政志
防衛医科大学校病院
産科婦人科・指定講師
中西 透
愛知県がんセンター中央病院
婦人科・部長
小西 郁生
京都大学大学院医学研究科
婦人科学産科学・教授
星合 昊
近畿大学医学部
産婦人科・教授
齋藤 俊章
国立病院機構九州がんセンター
婦人科・部長
落合 和徳
東京慈恵会医科大学
産婦人科・教授

中川 俊介
東京大学医学部附属病院
女性外科・助教
横田 治重
埼玉県立がんセンター
産婦人科・科長兼部長
日浦 昌道
国立病院機構四国がんセンター
手術部・部長
小林 裕明
九州大学大学院医学研究院
産科婦人科・准教授
竹島 信宏
癌有明病院
婦人科・副部長
波多江 正紀
鹿児島市立病院
産婦人科・部長
岩坂 剛
佐賀大学医学部
産婦人科・教授
斉藤 豪
札幌医科大学
産婦人科・教授
西村 貞子
大阪市立総合医療センター
婦人科・副部長

A. 研究目的

1. 第 II 相試験 (Feasibility Study)

III、IV 期の卵巣がん、卵管がん、腹膜がんを対象として、化学療法先行治療と手術先行治療とのランダム化比較試験を行う前段階として化学療法先行治療の feasibility study を行った。試験治療としての適切性を判断し、診断的腹腔鏡の必要性を決定する。

2. 第 III 相試験

III、IV 期の卵巣がん、卵管がん、腹膜がんに対して、手術の前後に 4 コースずつ計 8 コースの化学療法を行う「化学療法先行治療」が、現在の標準治療である、手術後に計 8 コースの化学療法を行う「手術先行治療」よりも有用であるかどうかをランダム化比較試験にて検証する。Primary endpoint: 全生存期間。Secondary endpoints: 完全腫瘍消失割合、無増悪生存期間、奏効割合 (B 群のみ)、有害事象、手術侵襲指標 (開腹手術回数、総開腹手術時間、出血量、総輸血量、総血漿製剤使用量)。

B. 研究方法

1. 第 II 相試験 (Feasibility Study)

適格規準は、(1) 画像所見で卵巣、卵管、腹膜がん III/IV 期、(2) 細胞診が上記に一致、(3) 初回腫瘍縮小手術可能、(4) CA125 > 200 U/ml、CEA < 20 ng/ml、(5) 測定可能病変有、(6) 20-75 才。(7) PS 0-3。(8) 諸臓器機能が保たれている、である。登録後、診断的腹腔鏡を行い、悪性、原発が上記臓器、進行期が III/IV 期、組織型を確認。1 週以内に化学療法 (TXL175 mg/m² +CBDC AUC6 を手術前後に 4 コース、計 8 コース) を開始。4 コース後に ICS (腫瘍縮小手術) を行う。Primary endpoint は完全腫瘍消失割合 (閾値割合 20%、期待割合 40%)。診断的腹腔鏡での正診割合 (90%以上) も検討した。目標登録数は 56 例であり、登録期間は 1 年。

2. 第 III 相試験

研究形式は多施設共同の第 III 相ランダム化比較試験 (非劣性試験)。対象症例は、開腹以外の手段で組織学的または細胞学的に診断され、CT/MRI で進行期分類された上皮性卵巣がん、卵管がん・腹膜がん III/IV 期の初回治療例で、20-75 才、CA125 > 200 IU/ml、CEA < 20 ng/ml、ECOG PS 0-3、適当な骨髄・肝・腎機能が保持され、初回腫瘍縮小手術の対象となりうる症例とする (測定可能病変の有無は問わない。これ以外は第 II 相試験と同一の対象)。

症例登録とランダム割付は、データセンターでの中央登録方式をとる。電話または FAX にて症例登録を行い、適格性の確認後、治療群の割付を受ける。ランダム化割付には、調整因子として施設、PS、臨床進行期、年齢を用いる。

解析方法としては、予定症例数の半数の登録時点と症例集積終了後にログランク検定にて両群の生存期間を比較する。予定登録数: 各群 150 例、両群計 300 例。症例数算定の根拠は次のとおりである。NAC 療法が標準治療に劣るかどうかは関心事項ではないため、有意水準 $\alpha = 0.05$ の片側検定とする。PCS の真の 3 年生存率を 25% と想定し、NAC がそれを下回る許容限界を 5% とする。NAC 療法の真の 3 年生存率が 30.3% であれば、80% の検出力で非劣性を検証することができる。

実施施設は、本研究の研究者の所属施設を中心に、全国の卵巣がん治療の基幹施設 34 施設 (2 施設増加、全施設で IRB 承認済)。

(倫理面への配慮)

参加患者の安全性確保については、正確な診断、有用性の高い治療等に配慮がなされており、試験参加による不利益は最小化される。また、「臨床研究に関する倫理指針」およびヘルシンキ宣言等の国際的倫理原則に従い以下を遵守する。1) 研究実施計画書 (プロトコール) の IRB 承認が得られた施設からしか患者登録を行わない。2) すべての患者について登録

前に十分な説明と理解に基づく自発的同意を本人より文書で得る。3) データの取扱い上、患者氏名等直接個人が識別できる情報を用いず、かつデータベースのセキュリティを確保し、個人情報(プライバシー)保護を厳守する。研究の第三者的監視：本研究班により、もしくは賛同の得られた他の主任研究者と協力して、臨床試験審査委員会、効果・安全性評価委員会、監査委員会を組織し、研究開始前および研究実施中の第三者的監視を行う。

C. 研究結果

1. 第 II 相試験の最終解析と論文発表

第 III 相ランダム化比較試験の開始に先立ち行った feasibility study (第 II 相試験; JCOG 0206) の最終解析結果を論文発表した(論文 18: Gynecol. Oncol. 2009)。対象は第 III 相試験と同じで、primary endpoint である完全腫瘍消失割合は 41.5%、major secondary endpoint である腹腔鏡前の正診率は 53/56 で診断的腹腔鏡を省略した第 III 相試験に進むことが決定されたのであるが、他のデータは以下のとおりである。

登録数は 56 例。平均年齢は 55 歳、登録時の病期は III 期 38 名、IV 期 18 名であった。PS は 0-1 が 46 名、2 が 7 名、3 が 3 名であった。奏効率は 77.4%(41/53) で PD は 4 例であった。IDS は 88.7%(47/53) に施行された。残存腫瘍は 0 が 29 名、< 1 cm が 9 名、> 1 cm が 9 名であった。適格 53 名の 3 年生存率は 60.1% (図 1)、3 年無増悪生存率は 18.9% であった (図 2)。IDS で残存腫瘍が 0, < 1 cm, > 1 cm では、3 年生存率は 72.1%、77.8%、22.2% で、3 年無増悪生存率は 34.5%、0%、0% であった。IDS での完全切除(残存腫瘍なし)の重要性 a が確認された。

2. 第 III 相試験のデザイン・必要性に関する論文発表

第 III 相試験のデザインペーパーとして、論文発表した(論文 12: JJC0, 2008)。また、第 II 相試験の論文発表した際、こ

の第 III 相試験が必須であることについても Letter to the Editor として論文発表した(論文 23: Gynecol. Oncol., 2009)。

3. 第 III 相試験の中間解析

登録数が半数にあたる 150 例に達し、データが揃ったところで、実施計画書に従い中間解析を行った。平成 21 年 9 月に中間解析を行い、継続が決定された。

4. 第 III 相試験の進捗状況

第 III 相試験は目標症例数 300 名に対し、平成 22 年 2 月 28 日現在 230 名の登録となっている。しかし、予定された登録期間は平成 18 年 11 月からの 3 年間であったので、安全をみて 1.5 年間の期間延長を決め、実施計画書を改訂した。

4. 第 III 相試験のモニタリング

最新のモニタリングレポートは平成 21 年 8 月 12 日に提出された。モニタリングにおいて早期に診断が判明する化学療法先行治療では、I/II 期例や他臓器原発がんが多く含まれることが危惧されるが、手術先行治療群において第 II 相試験で示した高い正診率を上回っていることが確認されている。また、プロトコル改訂を要するような有害事象も出ていない。登録時の画像による進行期は A 群; III 期 65 名、IV 期 28 名、B 群; III 期 64 名、IV 期 32 名であった。また、この試験の継続に関わるような問題点は指摘されていない。

D. 考察

卵巣がん III/IV 期に対する治療成績は 3 年生存率 25%、5 年生存率 20% であり、現在の標準治療は、診断優先で治療の負担も大きく、難しい治療体系のため均てん化も遅れている。治療成績の向上、治療の低浸襲化、均てん化には新たな治療体系の確立が必要であり、化学療法先行治療の標準化を目指す本試験の実施が必要である。本研究では非劣性試験を行うが、これを立証するには 3 年生存率を 5% 以上向上させる必要がある。第 II 相試験での 3 年生存率は 60.1% で予測を大きく

上回った。3年無増悪生存率は18.9%であるが、化学療法先行治療が現在の標準治療である手術先行治療を上回ることが期待できる結果と考える。

E. 結論

第III相試験の登録は概ね順調に進行している。第II相試験の成果により、化学療法先行治療の特性（抵侵襲、早期治療開始）を最大限に生かし、現在登録を終了したEORTC試験（結果はごく一部学会発表のみ）の欠点を克服した厳密な臨床試験となっている。第II相試験で予想以上の高い生存率が確認され、大きな成果が期待できる。

F. 健康危険情報

プロトコル治療との因果関係が否定できない重篤な有害事象として、腫瘍融解症候群G3、消化管穿孔G3、消化管瘻-腹部、直腸G3、アレルギー反応G4が各1例に認められた。各症例は、プロトコル治療中止となったが、これら有害事象は、予期されるあるいは想定される範囲内の有害事象であり、試験は継続中である。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Minaguchi T, Yoshikawa H, et al. Combined phospho-Akt and PTEN expressions associated with post-treatment hysterectomy after conservative progestin therapy in complex atypical hyperplasia and stage Ia, G1 adenocarcinoma of the endometrium. *Cancer Letters*, 248(1): 112-122, 2007.
2. Kondo K, Yoshikawa H, et al. Neutralization of HPV16, 18, 31, and 58 pseudovirions with antisera induced by immunizing rabbits with synthetic peptides representing segments of the HPV16 minor capsid protein L2 surface region. *Virology*, 358(2): 266-272, 2007.
3. Arimoto T, Yoshikawa H, et al. Treatment with paclitaxel plus carboplatin, alone or with irradiation, of advanced or recurrent endometrial carcinoma. *Gynecol Oncol*, 104(1):32-35, 2007.
4. Uno K, Yoshikawa H, et al. Tissue factor expression as a possible determinant of thromboembolism in ovarian cancer. *Br J Cancer*, 96(2): 290-295, 2007.
5. Ohara K, Yoshikawa H, et al. Explanation for the failure of neoadjuvant chemotherapy to improve outcomes after radiotherapy for locally advanced uterine cervical cancer from the standpoint of the tumor regression rate. *Radiat Med*, 25(2):53-59, 2007.
6. Goto N, Yoshikawa H, et al. Magnetic resonance findings of primary uterine malignant lymphoma. *Magn Reson Med Sci*, 6(1):7-13, 2007.
7. Tanaka YO, Yoshikawa H, et al. MR findings of ovarian tumors with hormonal activity, with emphasis on tumors other than sex cord-stromal tumors. *Eur J Radiol*, 32(6):647-653, 2007.
8. Ushijima K, Yoshikawa H, Konishi I, Saito T, Nakanishi T, Iwasaka T, Hatae M, Yaegashi N, Hiura M, Kamura T, et al. Fertility-Sparing Treatment with Medroxyprogesterone Acetate for Endometrial Carcinoma and Atypical Hyperplasia in Young Women: A Multicenter Phase II Study. *J Clin Oncol*, 25(19): 2798-2803, 2007.
9. Okamoto Y, Yoshikawa H, et al. Malignant or borderline mucinous cystic neoplasms have a larger number of loculi than mucinous cystadenoma: A retrospective study with MR. *J Magn Reson Imaging*, 26(1): 94-99, 2007.
10. Satoh T, Yoshikawa H, et al.: High

- incidence of silent venous thromboembolism before treatment in ovarian cancer. *Br J Cancer*, 97(8): 1053-1057, 2007.
11. Onuki M, Yoshikawa H, et al. Human papillomavirus infections among Japanese women: age-related prevalence and type-specific risk for cervical cancer. *Cancer Sciences*, 100(7):1312-1316, 2009.
 12. Onda T, Konishi I, Kamura T, Yoshikawa H, et al. Phase III trial of upfront debulking surgery versus neoadjuvant chemotherapy for stage III/IV ovarian, tubal and peritoneal cancers: Japan Clinical Oncology Group Study JCOG0602. *Jpn J Clin Oncol*, 38(1):74-77, 2008.
 13. Kondo K, Yoshikawa H, et al. Modification of human papillomavirus-like particle vaccine by insertion of the cross-reactive L2-epitopes. *J Med Virol*, 80(5): 841-846, 2008.
 14. Tanaka YO, Yoshikawa H, et al. Carcinosarcoma of the uterus: MR findings. *J Magn Reson Imaging*, 28(2): 434-439, 2008.
 15. Satoh T, Yoshikawa H, et al. Silent venous thromboembolism before treatment in endometrial cancer and the risk factors. *Br J Cancer*, 99(7): 1034-1039, 2008.
 16. Ochi H, Yoshikawa H, et al. Neutralizing antibodies against human papillomavirus types of 16, 18, 31, 52, and 58 in the serum samples from Japanese women with low grade cervical intraepithelial neoplasia. *Clin Vaccine Immunol*, 15(10): 1536-1540, 2008.
 17. Ohara K, Yoshikawa H, et al. Comparison of tumor regression rate of uterine cervical squamous cell carcinoma during external beam and intracavitary radiotherapy. *Radiat Med*, 26(9): 526-532, 2008.
 18. Onda T, Kobayashi H, Nakanishi T, Konishi I, Kamura T, Yoshikawa H, et al. Feasibility study of neoadjuvant chemotherapy followed by interval debulking surgery for stage III/IV ovarian, tubal, and peritoneal cancers: Japan Clinical Oncology Group Study JCOG0206. *Gynecol Oncol*, 113(1):57-62, 2009.
 19. Konno R, Yoshikawa H, et al. Immunogenicity, reactogenicity and safety of human papillomavirus 16/18 AS04-adjuvanted vaccine in Japanese women: interim analysis of a phase II double-blind, randomized controlled trial at Month 7. *Int J Gynecol Cancer*, 19(5): 905-911, 2009.
 20. Abe K, Yoshikawa H, et al. Stem cells of GATA1-related leukemia undergo pernicious changes after 5-fluorouracil treatment. *Experimental Hematology*, 37(4): 435-445.e1, 2009.
 21. Tanaka YO, Yoshikawa H, et al. MR and CT findings of leiomyomatosis peritonealis disseminata with emphasis on assisted reproductive technology as a risk factor. *Br J Radiol*, 82(975): e44-47, 2009.
 22. Onuki M, Yoshikawa H, et al. Human papillomavirus infections among Japanese women: age-related prevalence and type-specific risk for cervical cancer. *Cancer Sciences*, 100(7): 1312-1316, 2009.
 23. Onda T, Yoshikawa H. A phase III randomized trial comparing neoadjuvant chemotherapy and upfront debulking surgery is indispensable as a basis for changing the standard treatment of advanced Müllerian cancer. *Gynecol Oncol*. 114(2):371-372, 2009
 24. Onda T, Yoshikawa H, et al. The Optimal Debulking After Neoadjuvant Chemotherapy in Ovarian Cancer; Proposal Based on Interval Look During Upfront

- Surgery Setting Treatment. *Jpn J Clin Oncol*, 40(1):36-41, 2010
25. Kondo K, Yoshikawa H, et al. Nuclear location of minor capsid protein L2 is required for expression of a reporter plasmid packaged in HPV51 pseudovirions. *Virology*. 394(2):259-265. 2009.
 26. Saito I, Katsumata N, Konishi I, Yoshikawa H, Kamura T, et al. A Phase III Trial of Paclitaxel plus Carboplatin Versus Paclitaxel plus Cisplatin in Stage IVB, Persistent or Recurrent Cervical Cancer: Gynecologic Cancer Study Group/Japan Clinical Oncology Group Study (JCOG0505). *Jpn J Clin Oncol*, 40(1):90-93, 2010.
 27. Satoh T, Yaegashi N, Ochiai K, Takano M, Nakagawa S, Kobayashi H, Nakanishi T, Kamura T, Konishi I, and Yoshikawa H, et al. Outcomes of Fertility-Sparing Surgery for Stage I Epithelial Ovarian Cancer: A Proposal for Patient Selection. *JCO*, in press
- その他の発表
1. 片山博文、勝俣範之：「がん緩和医療 化学療法」日本臨床 65(1) :98-102, 2007
 2. 植原貴史、勝俣範之：「子宮頸がん とヒトパピロウイルス」がん分子標的治療 4(4) :298-304, 2007
 3. 西尾真、勝俣範之：「臨床試験（治験）よくわかる卵巣癌のすべて」永井書店 398-403, 2007
 4. 「がん診療レジデントマニュアル第4版」医学書院 2007年3月
 5. 橋本浩伸、勝俣範之：「がん薬物治療法におけるがん専門薬剤師と腫瘍内科医の連携について」くすりをつかうエビデンスをつかう 医学書院 66-73, 2007. 4月
 6. 後藤悌、勝俣範之：「がん性浮腫の薬物療法」PTM治療マニュアル 1(1) 4月号 2007.
 7. 小野麻紀子、勝俣範之：「再発卵巣癌に対する化学療法」産婦人科 専門医にきく最新の臨床 326-328, 2007
 8. 新明裕子、勝俣範之：「乳がんの骨転移の特徴と治療」がん患者と対症療法 18(1) : 54-58, 2007
 9. 齋藤文香、勝俣範之：「卵巣がん患者の治療をめぐって 再発・転移例への対応は化学療法の進め方」臨床腫瘍プラクティス 3(2) :168-174, 2007
 10. 山本春風、勝俣範之：「外来化学療法の実際」産科と婦人科 74(11)1464-1469, 2007
 11. 前田隆司、勝俣範之：「乳癌」内科腫瘍内科診療データファイル 100(6) :1275-1283, 2007
 12. 勝俣範之：卵巣がん治療ガイドライン 評価委員 2007年版日本婦人科腫瘍学会/編 金原出版 10月. 2007.
 13. 勝俣範之：「第8章女性患者の場合」がん医療におけるコミュニケーション・スキル 医学書院 52-57. 2007
 14. 中野絵里子、勝俣範之：「女性外来のためのがんスクリーニング」*medicina*44(13) :2297-2300, 2007.
 15. 勝俣範之：「診断結果の告知方法」がん看護実践シリーズ 乳がんメヂカルフレンド社 79-84, 2007. 12月.
 16. 齋藤文香、勝俣範之：「婦人科がんの化学療法」がん看護実践シリーズ 婦人科がん 2007. 10月.
 17. 堀田洋介、勝俣範之：「子宮体がんに対する化学療法」産婦人科の世界 59(11) :1003-1010, 2007
 18. Mizuno T, Katsumata N, et al. :The outpatient management of low-risk febrile patients with neutropenia: risk assessment over the telephone. *Support Care Cancer*, 15(3) : 287-291. 2007.
 19. Shimizu C, Katsumata N, et al. Current trends and controversies over pre-operative chemotherapy for women with operable breast cancer. *Jpn J Clin Oncol*, 37(1) :1-8, 2007.
 20. Kouno T, Katsumata N, et al. : Weekly paclitaxel and carboplatin against advanced urotelial carcinoma after failure of a

- platinum-based regimen. *Eur Urol*, 52(4): 1115-1122, 2007.
21. 恩田貴志 : 【婦人科がん再発への対応】 卵巣がん再発 限局病巣に対する手術療法、産科と婦人科 74(10): 1189-1194、2007.
 22. 恩田貴志 : 【Neoadjuvant Therapy の適応と効用・II】 卵巣癌、癌と化学療法 34(11):1735-1739、2007.
 23. 恩田貴志 : 特集【子宮がん・卵巣がん～最新の治療と看護①】 子宮がん・卵巣がんの治療戦略、がん看護 12(7):679-683、2007.
 24. Kawano K, Kamura T, et al. : Peptide YY producing strumal carcinoid of the ovary as the cause of severe constipation with contralateral epithelial ovarian cancer. *J Obstet Gynaecol Res*, 33(3):392-396, 2007.
 25. Nishio S, Kamura T, et al. Pilot study evaluating the efficacy and toxicity of irinotecan plus oral etoposide for platinum-and taxane - resitant epithelial ovarian cancer. *Gynecol Oncol*, 106(2): 342-347, 2007.
 26. Sakuma M, Yaegashi N, et al. Promoter methylation status of the Cyclin D2 gene is associated with poor prognosis in human epithelial ovarian cancer. *Cancer Science*, 98(3):380-386, 2007.
 27. Takano M, et al. : Progression-Free Survival and Overall Survival of Clear Cell Carcinoma of the Ovary Treated with Paclitaxel-Carboplatin or Irinotecan-Cisplatin: Retrospective analysis. *International Journal of Clinical Oncology*, 12(4): 256-260, 2007.
 28. Takano M, et al. Transcriptional cross talk between the forkhead transcription factor forkhead box O1A and the progesterone receptor coordinates cell cycle regulation and differentiation in human endometrial stromal cells. *Mol Endocrinol*, 21(10):2334-2349, 2007.
 29. Feroze-Zaidi F, Takano M, et al. Role and Regulation of the Serum and Glucocorticoid Regulated Kinase 1 in Fertile and Infertile Human Endometrium. *Endocrinology*, 148(10):5020-5029, 2007.
 30. Yamamoto S, Takano M, et al. : Actinin-4 expression in ovarian cancer: a novel prognostic indicator independent of clinical stage and histological type. *Modern Pathology*, 20(12): 1278-1285, 2007.
 31. Yamamoto S, Takano M, et al. : Clear cell adenocarcinoma associated with clear cell adenofibromatous component: a subgroup of ovarian clear cell adenocarcinoma with distinct clinicopathological characteristics. *American Journal of Surgical Pathology*, 31(7): 999-1006, 2007.
 32. Yamamoto S, Takano M, et al. Expression of platelet-derived growth factors and their receptors in ovarian clear-cell carcinoma and its putative precursors. *Modern Pathology*, 21(2): 115-124, 2007.
 33. Goto T, Takano M, et al. Mechanism and functional consequences of loss of FOXO1 expression in endometrioid endometrial cancer cells. *Oncogene*, 27(1): 9-19, 2008.
 34. Takano M, et al. Methods of cancer diagnosis, therapy and prognosis. Clear cell carcinoma of the ovary: Prognosis using cytoreductive surgery. Elsevier Academic Press, St. Louis, MO, USA. Ed: Hayat MA.
 35. 高野政志. :産婦人科 専門医にきく最新の臨床 III. 婦人科腫瘍・その他 C. 卵巣癌 3.Optimal手術 (鈴木光明 吉村泰典編 中外医学社)、308-310、2007.
 36. 喜多恒和、高野政志、他:完璧!産婦人科ローテート・マニュアル 第Ⅲ章産婦人科病棟での研修 19. 卵巣腫瘍の手術療法 産婦人科の実際別冊、207-211、2007.
 37. 藤井和之、高野政志、他 : 卵巣明細

- 胞腺癌早期症例 (I + II期) における化学療法と予後に関する検討. 日本婦人科腫瘍学会雑誌 25(1): 23-29, 2007.
38. 山本宗平、高野政志、他: 明細胞腺線維腫成分を伴う卵巣明細胞癌の臨床病理学的特徴. 日本婦人科腫瘍学会雑誌 25(1): 30-38, 2007.
 39. 佐々木直樹、高野政志、他: 【卵巣がん患者の治療をめぐって】 治療の実際 進行癌への応は手術+術後化学療法 (Optimal 例への対応) 臨床腫瘍プラクティス 3(2): 154-157, 2007.
 40. Hirose K, Nakanishi T, et al.: Coffee consumption and the risk of endometrial cancer: Evidence from a case-control study of female hormone-related cancers in Japan. *Cancer Sci*, 98(3): 411-415, 2007.
 41. Morishima S, Nakanishi T, et al.: Identification of an HLA-A24-restricted cytotoxic T lymphocyte epitope from human papillomavirus type-16 E6: the combined effects of bortezomib and interferon-gamma on the presentation of a cryptic epitope. *Int J Cancer*, 120(3): 594-604, 2007.
 42. Niwa Y, Nakanishi T, et al. Lymphotoxin-alpha polymorphisms and the risk of endometrial cancer in Japanese subjects. *Gynecol Oncol*, 104(3): 586-590, 2007.
 43. Chen X, Konishi I, et al. Hedgehog signal pathway is activated in ovarian carcinomas, correlating with cell proliferation. *Cancer Sci*, 98(1): 68-76, 2007.
 44. Osada R, Konishi I, et al.: Expression of hypoxia-inducible factor-1a, HIF-1a and von Hippel-Lindau (VHL) protein in epithelial ovarian neoplasms: Nuclear expression of hypoxia-inducible factor-1a is an independent prognostic factor in ovarian carcinoma. *Hum Pathol*, 38(9): 1310-1320, 2007.
 45. Mandai M, Konishi I, et al.: LH/hCG action and development of ovarian cancer: A short review on biological and clinical/epidemiological aspects. *Mol Cell Endocrinol*, 269(1-2): 61-64, 2007.
 46. Zhang Z-M, Iwasaka T, et al. Retinoic acid receptor β 2 is epigenetically silenced either by DNA methylation or repressive histone modifications at the promoter in cervical cancer cells. *Cancer Letters*, 247(2): 318-327, 2007.
 47. Yokoyama M, Iwasaka T, et al. Anti-proliferative effects of the major polyphenol, (-)-epigallocatechin gallate and retinoic acid in cervical adenocarcinoma. *Gynecologic Oncology* 108(2): 326-331, 2008.
 48. Watanabe Y, Hoshiai H, et al. A Change in promoter methylation of hMLH1 is a cause of acquired resistance to platinum-based chemotherapy in epithelial ovarian cancer. *Anticancer Res* 27(3B): 1449-1452, 2007.
 49. Nakai H, Hoshiai H, et al. Hypoxia inducible factor 1-alpha expression as a factor predictive of efficacy of taxane/platinum chemotherapy in advanced primary epithelial ovarian cancer. *Cancer Lett*, 251(1): 164-167, 2007.
 50. 萩原聖子、齋藤俊章.: 子宮悪性腫瘍治療薬 医薬ジャーナル 43; 131-136, 2007.
 51. 齋藤俊章.: 婦人科がん再発の治療戦略総論—手術療法—、産科と婦人科 74(10): 1141-1148, 2007.
 52. 齋藤俊章.: 局所進行子宮体癌の手術治療、産婦人科の世界 59: 1027-1036, 2007.
 53. 萩原聖子、齋藤俊章、他.: 8年後に卵巣に再発した虫垂原発腹膜偽粘液腫の1例. 産科と婦人科 74(12): 1676-1679, 2007.
 54. 小林陽子、齋藤俊章、他.: 腔悪性黒色腫の1例. 日本臨床細胞学会九

- 州連合会雑誌 38:39-42, 2007
55. Saito T, et al.: Management of lymph nodes in the treatment of vulvar cancer. *Int. J. Clin. Oncol*, 12(3):187-191, 2007.
56. akao M, Ochiai K, et al.: Increased synthesis of indoleamine-2,3-dioxygenase protein is positively associated with impaired survival in patients with serous-type, but not with other types of, ovarian cancer. *Oncol Rep*, 17(6): 1333-1339, 2007.
57. Motegi M, Ochiai K, et al.: Adjuvant chemotherapy in a pregnant woman with endodermal sinus tumor of the ovary. *Obstet Gynecol*, 109(2Pt2): 537-540, 2007.
58. Teramukai S, Ochiai K, et al.: PIEPOC: a new prognostic index for advanced epithelial ovarian cancer - Japan Multinational Trial Organization OC01-01. *J Clin Oncol*, 25(22): 3302-3306, 2007.
59. Takakura S, Ochiai K, et al.: Irinotecan hydrochloride (CPT-11) and cisplatin as first-line chemotherapy after initial surgery for ovarian clear cell adenocarcinoma *Int Surg*, 92(4): 202-208, 2007.
60. Ohishi Y, Kobayashi H, et al.: Expression of beta-tubulin isotypes in human primary ovarian carcinoma. *Gynecol Oncol*, 105(3): 586-592, 2007.
61. Oda Y, Kobayashi H, et al.: Prognostic implications of the nuclear localization of Y-box-binding protein-1 and CXCR4 expression in ovarian cancer: Their correlation with activated Akt, LRP/MVP and P-glycoprotein expression. *Cancer Sci*, 98(7): 1020-1026, 2007.
62. Sonoda K, Kobayashi H, et al.: Biologic significance of receptor-binding cancer antigen expressed on SiSo cells (RCAS1) as a pivotal regulator of tumor growth through angiogenesis in human uterine cancer. *Cancer*, 110(9): 1979-1990, 2007.
63. Ohishi Y, Kobayashi H, et al.: CD56 expression in ovarian granulosa cell tumors, and its diagnostic utility and pitfalls. *Gynecol Oncol*, 107(1):30-38, 2007.
64. 兼城英輔、小林裕明、他：子宮内膜症の特殊病態を病理と臨床から考えるー病理からー子宮外子宮内膜間質腫瘍。産婦人科の実際。56(10): 1457-1462, 2007.
65. 矢幡秀昭、小林裕明、他、: 卵巣明細胞腺癌に対する塩酸イリノテカン+シスプラチン併用化学療法 of 検討。日本婦人科腫瘍学会雑誌。26(1): 16-20, 2008.
66. 日浦昌道、他：子宮鏡検査。子宮腫瘍病理アトラス 83-87, 2007.
67. 松元 隆、日浦昌道: 2. 疫学 1) 罹患率と死亡率の推移ー国際比較, リスクファクターを含めて。よくわかる卵巣癌のすべて 永井書店 11-16, 2007.
68. 日浦昌道、他：婦人科手術とQOL 若年子宮体癌の子宮温存療法。産婦治療 94 (3) : 273-279, 2007.
69. 野河孝充、日浦昌道: 広汎子宮全摘出時の膀胱・直腸腹膜による腔円蓋形成の試み。産婦人科手術 18 : 49 - 52, 2007.
70. 日浦昌道、他:産婦人科診療 Data Book 子宮体癌II-IV期. 特集 37号 産婦の実際 56(11):1743-1747, 2007.
71. 日浦昌道: クリニカルカンファレンス (腫瘍領域); 1. 子宮体癌の診断から治療まで 5) 子宮温存療法. 日産婦誌 59 (9) : 307-311, 2007.
72. 山本弥寿子、竹原和宏、他：進行卵巣癌における初回手術、術後化学療法に関する検討。日本婦人科腫瘍学会雑誌 25(1) : 50-56, 2007.
73. 藤本幸子、竹原和宏、他：術後に重複卵巣癌が発見された若年者の子宮体癌の1例。日本婦人科腫瘍学会雑誌 25(2) : 117-121, 2007.
74. 佐治文隆、竹原和宏、他：子宮頸部

- 腫瘍に対する妊孕性温存手術. 産婦人科治療 94 (3): 261-266, 2007.
75. 熊谷正俊, 竹原和宏, 他: セルトリ・乾湿細胞腫瘍 (低分化型) の1例. 日本婦人科腫瘍学会雑誌 25(3): 296-301, 2007.
 76. 竹原和宏, 他: 当院における進行卵巣癌の治療成績 -TC療法とCAP療法の後方視的検討-. 癌の臨床 53(4): 255-258, 2007.
 77. 竹原和宏, 他: 子宮頸部原発リンパ上皮腫様癌の1例. 日本臨床細胞学会雑誌 46(6): 365-369, 2007.
 78. 恩田貴志: 【婦人科がん治療の臨床試験 新たなエビデンスを求めて】 進行卵巣癌に対する NAC 化学療法 NAC vs. 術後 57(13): 2147-2155, 2008.
 79. Katsumata N, Kamura T, Nakanishi T, Ochiai K, et al. Phase II clinical trial of pegylated liposomal doxorubicin (JNS002) in Japanese patients with mullerian carcinoma (epithelial ovarian carcinoma, primary carcinoma of fallopian tube, peritoneal carcinoma) having a therapeutic history of platinum-based chemotherapy: a Phase II Study of the Japanese Gynecologic Oncology Group. Jpn J Clin Oncol, 38(11):777-785, 2008.
 80. Ota S, Kamura T, et al., Polypoid endocervical adenomyoma of the uterus : A case report with MR imaging pathological analyses. Radiography, 14:162 - 165, 2008.
 81. Nishio S, Kamura T, et al., Cap43 / NDRG1 / Drg-1 is a molecular target for angiogenesis and a prognostic indicator in cervical adenocarcinoma. Cancer letters, 264:36-43, 2008.
 82. Suzuki F, Yaegashi N, et al. Loss of estrogen receptor beta isoform expression and its correlation with aberrant DNA methylation of the 5'-untranslated region in human epithelial ovarian carcinoma. Cancer Sci, 99(12): 2365-2372, 2008.
 83. Tokunaga H, Yaegashi N, et al. Clinicopathological significance of circadian rhythm-related gene expression levels in patients with epithelial ovarian cancer. Acta Obstet Gynecol Scand, 87(10): 1060-1070, 2008.
 84. Takano M, Yaegashi N, et al. Low response rate of second-line chemotherapy for recurrent or refractory clear cell carcinoma of the ovary: a retrospective Japan Clear Cell Carcinoma Study. Int J Gynecol Cancer, 18(5):937-942, 2008.
 85. Takano M, et al. Bowel Perforation Associated with Bevacizumab Therapy in Recurrent Ovarian Cancers without Bowel Obstruction or Bowel Involvement. Cancer & Chemother, 35(11):1981-1984, 2008.
 86. Kikuchi Y, Takano M, et al. Successful treatment with weekly paclitaxel and carboplatin combined with trastuzumab in a patient with heavily pretreated metastatic breast cancer. European Journal of Obstetrics & Gynecology and Reproductive Biology, 141(2): 186-191, 2008.
 87. Yamamoto S, Takano M, et al. Clear-cell adenofibroma can be a clonal precursor for clear-cell adenocarcinoma of the ovary: a possible alternative ovarian clear-cell carcinogenic pathway. Journal of Pathology, 216(1): 103-110, 2008.
 88. Takano M, et al. Survival analysis of ovarian clear cell carcinoma confined to the ovary with or without comprehensive surgical staging. Oncology Reports, 19: 1259-1264, 2008.
 89. Yamamoto S, Takano M, et al. Expression of platelet-derived growth factors and their receptors in ovarian clear-cell carcinoma and its putative precursors. Modern Pathology, 21(2):115-124, 2008
 90. Goto T, Takano M, et al. The

- involvement of FOXO1 in cytotoxic stress and drug-resistance induced by paclitaxel in ovarian cancers. *British Journal of Cancer*, 98(6): 1068-1075, 2008.
91. Goto T, Takano M, et al. Mechanism and functional consequences of loss of FOXO1 expression in endometrioid endometrial cancer cells. *Oncogene*, 27(1):9-19, 2008.
 92. 高野政志, 他. 卵巣明細胞癌に対する単一施設での治療経験. *日本婦人科腫瘍学会雑誌* 26(1): 21-27, 2008.
 93. 笹秀典, 高野政志, 他. 診断困難であった大腸癌の子宮浸潤例. *日本臨床細胞学会埼玉県支部会誌* 26(7): 26-29, 2008.
 94. 河合淳子, 高野政志, 他. 子宮内膜細胞診が診断のキーポイントとなった2例. *日産婦関東連合会誌* 45(3): 280-280, 2008.
 95. 今井加納子, 高野政志, 他. 生検組織診と最終組織診の不一致例. *子宮筋層病変生検研究会誌* 8(1):4-5, 2008.
 96. 高野政志, 他: 婦人科癌におけるイリノテカン/シスプラチン療法の有害事象に及ぼすUDP-グルクロン酸転移酵素UGT1A1の遺伝子多型の臨床的重要性. *CPT-11 Frontier 2008 ASCO*: 4, 2008
 97. 高野政志: 特殊型癌の診断と治療 卵巣明細胞腺癌. *日本産科婦人科学会雑誌* 60(9): 224-228, 2008
 98. 高野政志, 他: 婦人科癌に対するイリノテカン+シスプラチン療法の有害事象におけるUGT1A1*6の影響. *Up-front treatment of gynecologic and breast cancers from 2008 ASCO*: 7, 2008.
 99. 高野政志, 他: プラチナ製剤I シスプラチン (CDDP)/ネダプラチン (COGP). *産科と婦人科* 3(1): 261-267, 2008
 100. Sugiyama T, Konishi I: Emerging drugs for ovarian cancer. *Expert Opin Emerging Drugs*, 13(3): 523-536, 2008.
 101. Horiuchi A, Konishi I, et al: Overexpression of RhoA enhances peritoneal dissemination of ovarian carcinoma cells: RhoA suppression with Lovastatin may be useful for the treatment for disseminated metastases. *Cancer Sci*, 99(12): 2532-2539, 2008.
 102. 万代昌紀, 小西郁生: 卵巣癌の早期診断、産婦人科の実際、57(11): 1704-1711, 2008.
 103. 安田 允, 小西郁生, 他: 表層上皮性卵巣癌に対する初回化学療法としてのDocetaxel/Carboplatin (DC) 療法の検討. *日本婦人科腫瘍学会雑誌*, 26(2): 149-154, 2008.
 104. Watanabe Y, Hoshiai H, et al. Feasibility study of docetaxel and nedaplatin for recurrent squamous cell carcinoma of the uterine cervix. *Anticancer Res*, 28(4C): 2385-2388. 2008.
 105. Watanabe Y, Hoshiai H, et al. Phase II study of single-agent gemcitabine in heavily pretreated Japanese patients with recurrent ovarian cancer. *Int J Clin Oncol*, 13(4): 345-348, 2008.
 106. 小谷泰史, 星合 昊, 他: 腹腔鏡下子宮筋腫核出術(LM)に対する術前 GnRH アゴニスト療法の有効性の検討、産婦人科の進歩、60(2):190. 2008.
 107. 有吉和也, 齋藤俊章. 婦人科がん化学療法 up to date, 子宮頸癌、再発に対するレジメンとその有効性. *臨床婦人科産科* 62(5):92-695, 2008.
 108. Suehiro Y, Saito T, et al. Aneuploidy predicts outcome in patients with endometrial carcinoma and is related to lack of CDH13 hypermethylation. *Clin Cancer Res* 14(11):3354-3361, 2008.
 109. Saeki T, Ochiai K, et al. No increase of breast cancer incidence in Japanese women who received hormone replacement therapy: overview of a case-control study of breast cancer risk in Japan. *Int J Clin Oncol*, 13(1):8-11, 2008.
 110. Suzuki T, Saito T, et al. Analgesic

- efficacy of controlled-release oxycodone in patients with uterine or ovarian cancer, *Am J Ther*, 15:31-35, 2008.
111. ウロブレスキ順子、日浦昌道、他：ワークショップ1 進行子宮頸癌の治療－CCRT 4. 四国がんセンターにおける Concurrent Chemoradiotherapy の検討. *日本婦人科腫瘍学会雑誌* 26(1):33-39, 2008.
 112. 横山 隆、日浦昌道、他：ワークショップ2 子宮体癌の予後因子 4. 手術進行分類IVb 期子宮体癌の予後因子. *日本婦人科腫瘍学会雑誌* 26(2):130-134, 2008.
 113. 日浦昌道、他：Ⅲ. 手術療法の問題点 1. 外陰癌手術. *産婦人科の実験* 57(11):1713-1719, 2008.
 114. 日浦昌道：「2. 術後補助療法」婦人科がん標準化学療法の実験－グローバルスタンダードを目指して－(宇田川康博, 八重樫伸生編集). 金原出版、東京、61-66、2008、11月.
 115. 松元 隆、日浦昌道、他：「2. 子宮がんの診断」特集 子宮がんの治療指針 臨床腫瘍プラクティス、4(4):301-304、2008.
 116. 小谷凡子、勝俣範之：「第三相試験」がん薬物療法学、日本臨床 67(950):408-413、2009.
 117. 本多和典、勝俣範之：「卵巣癌」がん薬物療法学、日本臨床 67(950)：695-699、2009.
 118. 山口智宏、勝俣範之：「がん薬物療法専門医のための模擬テスト1」腫瘍内科 3(1):132-134、2009.
 119. 平田泰三、勝俣範之：「乳がん術後化学療法としてAC療法に引き続く毎週投与のパクリタキセル」critical eyes no. 30, 3-4, 2009.
 120. 東光久、勝俣範之：「子宮頸がん」Pharma Tribune 1(7):22-29, 2009
 121. 橋本淳、勝俣範之：「第 47 回日本癌治療学会関連特集 婦人科癌」Medicament News 1992.11-13, 2009.
 122. 原野謙一、勝俣範之：「婦人科癌化学療法クリニカルパス」婦人科癌化学療法ポケットマニュアル メディカルビュー社 2009.
 123. Yonemura M, Katsumata N, et al. Randomized Controlled Study Comparing Two Doses of Intravenous Granisetron (1 and 3 mg) for Acute Chemotherapy-induced Nausea and Vomiting in Cancer Patients: A Non-inferiority Trial. *Jpn J Clin Oncol*, 39(7):443-448, 2009.
 124. Iwasa S, Katsumata N, et al. Relapse with Malignant Transformation After Chemotherapy for Primary Mediastinal Seminoma: Case Report. *Jpn J Clin Oncol*, 39(7):456-459, 2009.
 125. Shimozuma K, Katsumata N, et al. Feasibility and validity of the Patient Neurotoxicity Questionnaire during taxane chemotherapy in a phase III randomized trial in patients with breast cancer: N-SAS BC 02. *Support Care Cancer*, 17(12):1483-1491, 2009.
 126. Katsumata N, et al. Phase III trial of doxorubicin plus cyclophosphamide (AC), docetaxel, and alternating AC and docetaxel as front-line chemotherapy for metastatic breast cancer: Japan Clinical Oncology Group trial (JCOG9802). *Ann Oncol*, 20(7):1210-1215, 2009.
 127. Iura A, Katsumata N, et al. Outpatient management of low-risk febrile patients on paclitaxel and carboplatin for ovarian cancer. *Int J Gynaecol Obstet*, 105(3):261-262, 2009.
 128. Ono M, Katsumata N, et al. Brain metastases in patients who receive trastuzumab-containing chemotherapy for HER2-overexpressing metastatic breast cancer. *Int J Clin Oncol*, 14(1):48-52, 2009.
 129. Matsumoto K, Katsumata N, et al. Identification of predictive biomarkers for response to trastuzumab using plasma FUCA

- activity and N-glycan identified by MALDI-TOF-MS. *J Proteome Res*, 8(2):457-462, 2009.
130. Katsumata K, Ochiai K, for the Japanese Gynecologic Oncology Group, et al. A Randomised Phase III Trial of "Dose-dense" Weekly Paclitaxel in Combination with Carboplatin for Advanced Ovarian Cancer. *Lancet*, 374:1331-1338, 2009
 131. Katsumata K, Ochiai K, for the Japanese Gynecologic Oncology Group, et al. Japanese Gynecologic Oncology Group. Dose-dense paclitaxel once a week in combination with carboplatin every 3 weeks for advanced ovarian cancer: a phase 3, open-label, randomised controlled trial. *Lancet*, 374(9698):1303-1305, 2009.
 132. 加藤友康、恩田貴志、他：【産婦人科における治療範囲の広がりとは科との連携 産婦人科の魅力と今後の展望】 婦人科悪性腫瘍(卵巣癌・子宮体癌など) 骨盤内浸潤を認める子宮癌、58(10): 1485-1490、2009.
 133. Nishio S, Katsumata N, Kamura T, et al. Usefulness of third-line chemotherapy for women with recurrent ovarian, fallopian tube, and primary peritoneal cancer who receive platinum/taxane regimens as first-line therapy, *J Cancer Res Clin Oncol*, 135(4):551-557, 2009.
 134. Nishio S, Kamura T, et al. Clinicopathological significance of cervical adenocarcinoma associated with lobular endocervical glandular hyperplasia. *Pathology - Research and Practice*, 205(5):331-337, 2009.
 135. Takemoto S, Kamura T, et al. Primary adenocarcinoma of the vagina successfully treated with neoadjuvant chemotherapy consisting of paclitaxel and carboplatin. *J Obstet Gynecol Res*, 35(3):579-83, 2009.
 136. Takemoto S, Kamura T, et al. Expression of activated signal transducer and activator of transcription-3 predicts poor prognosis in cervical squamous - cell carcinoma. *Br J Cancer*, 101(6): 967-972, 2009.
 137. Toyoshima M, Yaegashi N, et al. : Generation of syngenic mouse model to study the intraperitoneal dissemination of ovarian cancer with in vivo luciferase imaging. *Luminescence*, 24(5): 324-331, 2009.
 138. Yamamoto S, Takano M, et al. Actinin-4 gene amplification in ovarian cancer: a candidate oncogene associated with poor patient prognosis and tumor chemoresistance. *Mod Pathol*, 22(4); 499-507, 2009.
 139. Takano M, Yokota H, et al. Clinical significance of UDP-glucuronosyltransferase 1A1*6 upon toxicities of combination chemotherapy with irinotecan and cisplatin in gynecologic cancers: a prospective multi-institutional study. *Oncology*, 76(5): 315-321, 2009.
 140. Goto T, Takano M, et al. p16INK4a expression in cytology of ascites and response to chemotherapy in advanced ovarian cancer. *Int J Cancer*, 125(2): 339-344, 2009.
 141. Yamamoto S, Takano M, et al. An allelotype analysis indicating the presence of two distinct ovarian clear-cell carcinogenic pathways: endometriosis-associated pathway vs. clear-cell adenofibroma-associated pathway. *Virchows Arch*, 455(3): 261-270, 2009.
 142. Takano M, et al. Complete remission of metastatic and relapsed uterine cervical cancers using weekly administration of bevacizumab and paclitaxel/carboplatin. *Onkologie*, 32(10): 595-597, 2009.

143. Takano M, et al. Primary clear cell carcinoma of the peritoneum: report of two cases and a review of the literature. *Eur J Gynaecol Oncol*, 30(5): 575-578, 2009.
144. Takano M, Yaegashi N, et al. The impact of complete surgical staging upon survival in early-stage ovarian clear cell carcinoma: a multi-institutional retrospective study. *Int J Gynecol Cancer*, 19(8): 1353-1357, 2009.
145. Miyai K, Takano M, et al. Massive intra-abdominal undifferentiated carcinoma derived from an endometrioid adenocarcinoma in a "normal-sized" ovary. *Int J Gynecol Pathol*, in press.
146. Takano M, Yaegashi N, et al. Identification of potential serum markers for endometrial cancer using protein expression profiling. *J Cancer Res Clin Oncol*, in press.
147. Takano M, et al. Indispensability of UGT1A1*6 genotyping in Japanese cancer patients treated with irinotecan. *Int J Clin Oncol*, in press.
148. Goto T, Takano M, et al. Single nedaplatin treatment as salvage chemotherapy for platinum/taxane-resistant /refractory epithelial ovarian, tubal and peritoneal cancers. *J Obstet Gynaecol Res*, in press.
149. Kikuchi Y, Takano M, et al. Effects of weekly bevacizumab and pegylated liposomal doxorubicin in heavily pretreated patients with recurrent or progressed ovarian cancer. *Proc Am Soc Clin Oncol 2009* (abstr. 5547).
150. Leitao B, Takano M, et al. Silencing of the JNK pathway maintains progesterone receptor activity in decidualizing human endometrial stromal cells exposed to oxidative stress signals. *FASEB J*, in press.
151. 笹秀典、高野政志、他.: ホルモン産生卵巣腫瘍 - 細胞診の観点から. 埼玉県医学会雑誌, 43: 460-465, 2009.
152. 高野政志、他.: 進行卵巣がんにおける化学療法先行治療の確立に関する研究: 早期卵巣明細胞腺癌における系統的リンパ節郭清の意義. 厚生労働省科学研究費補助金 がん臨床研究事業 進行卵巣がんにおける化学療法先行治療の確立に関する研究 平成 20 年度総括・分担研究報告書, 15-21, 2009.
153. 三輪淳子、高野政志、他.: 婦人科悪性腫瘍の診断における針生検の有用性と限界について. 子宮筋層病変生検研究会誌 9: 6-7, 2009.
154. 笹秀典、高野政志、他.: 子宮内膜細胞診が診断の遅れの要因となった 2 例. 埼玉県医学会雑誌, 44: 258-262, 2009.
155. 笹秀典、高野政志、他. 重症化した骨盤腹膜炎の背景と管理—3 例の検討. 防衛医科大学校雑誌, 34: 274-281, 2009.
156. Kodaira T, Nakanishi T, et al. Prospective study of alternating chemoradio-therapy consisting of extended-field dynamic conformational radiotherapy and systemic chemotherapy using 5-FU and nedaplatin for patients in high-risk group with cervical carcinoma. *Int J Radiat Oncol Biol Phys*. 73(1):251-258, 2009.
157. 中西 透、他.: 卵巣癌治療後の経過観察に関する考察 東海産科婦人科学会雑誌、44:79-83、2009.
158. Li K, Konishi I, et al. Clinical significance of the NKG2D ligands, MICA/B and ULBP2 in ovarian cancer: high expression of ULBP2 is an indicator of poor prognosis. *Cancer Immunol Immunother*. 58(5):641-652, 2009.
159. Liu M, Konishi I, et al. Classification using hierarchical clustering of tumor-infiltrating immune cells identifies poor prognostic ovarian cancers with

- high levels of COX expression. *Mod Pathol*, 22(3):373-384, 2009.
160. Yoshida J, Konishi I, et al. Changes in the expression of E-cadherin repressors, Snail, Slug, SIP1, and Twist, in the development and progression of ovarian carcinoma: the important role of Snail in ovarian tumorigenesis and progression. *Med Mol Morphol*. 42(2):82-91, 2009.
 161. Kondoh E, Konishi I, et al. Targeting slow-proliferating ovarian cancer cells. *Int J Cancer*. in press
 162. Hamanishi J, Konishi I, et al. Activated local immunity by CC chemokine ligand 19-transduced embryonic endothelial progenitor cells suppresses metastasis of murine ovarian cancer. *Stem Cells*. 28(1):164-173, 2010.
 163. Hayashi A, Konishi I, et al. Type-specific roles of histone deacetylase (HDAC) overexpression in ovarian carcinoma: HDAC1 enhances cell proliferation and HDAC3 stimulates cell migration with down-regulation of E-cadherin. *Int J Cancer*, in press
 164. Yamaguchi K, Konishi I, et al. Identification of an ovarian clear cell carcinoma gene signature that reflects inherent disease biology and the carcinogenic processes. *Oncogene*. in press
 165. Hata K, Hoshiai H, et al. Association of metastin/a G-protein-coupled receptor signaling and Down syndrome critical region 1 in epithelial ovarian cancer. *Anticancer Res*, 29(2):617-623, 2009.
 166. Yanazume S, Saito T, et al. Diaphragmatic defect complicated with massive pleural effusion in a patient with bulky ovarian cancer. *Gynecologic Oncology* 115(3):512-51, 2009.
 167. Takakura S, Takano M, Saito T, Ochiai K, et al. Randomized phase II trial of paclitaxel plus carboplatin therapy versus irinotecan plus cisplatin therapy as first-line chemotherapy for clear cell adenocarcinoma of the ovary. A JGOG study. *Int. J. Gynecol. Cancer*, 20(2):240-247, 2010.
 168. Okadome M, Saito T, et al. Postoperative pulmonary embolism including asymptomatic cases in gynecologic oncology. *Int J Gyn. Cancer*. in press
 169. Okamoto S, Takao M, Ochiai K, et al. Mesenchymal to epithelial transition in the human ovarian surface epithelium focusing on inclusion cysts. *Oncol Rep*. 21(5):1209-1214, 2009.
 170. Tamez S, Ochiai K, et al. Vitamin D receptor polymorphisms and prognosis of patients with epithelial ovarian cancer. *Br J Cancer*, 101(12):1957-1960, 2009.
 171. Yasunaga H, Ochiai K, et al. Impact of surgeon and hospital volumes on short-term postoperative complications after radical hysterectomy for cervical cancer. *J Obstet Gynaecol Res*, 35(4):699-705, 2009.
 172. Aoki D, Kamura T, Hoshiai H, Ochiai K, et al. Favourable prognosis with modified dosing of docetaxel and cisplatin in Japanese patients with ovarian cancer. *Anticancer Res*, 29(2):561-566, 2009.
 173. Maeda D, Nakagawa S, et al. Glypican-3 expression in clear cell adenocarcinoma of the ovary. *Mod Pathol*, 22(6):824-832, 2009.
 174. Koyama S, Nakagawa S, et al. Repression of estrogen receptor beta function by putative tumor suppressor DBC1. *Biochem Biophys Res Commun*. in press
 175. Murayama-Hosokawa S, Nakagawa S,

- et al. Genome-wide single-nucleotide polymorphism arrays in endometrial carcinomas associate extensive chromosomal instability with poor prognosis and unveil frequent chromosomal imbalances involved in the PI3-kinase pathway. *Oncogene*. in press
176. Shoji K, Nakagawa S, et al. The oncogenic mutation in the pleckstrin homology domain of AKT1 in endometrial carcinomas. *Br J Cancer*, 101(1):145-148, 2009.
177. 日浦昌道、他：特集 妊孕能温存の婦人科がん治療 13. 子宮ポリープ状異常型腺筋腫の妊孕能温存治療：産婦人科の実際 58(3):359-364, 2009.
178. Shimada M, Hiura M, et al. Clinicopathological characteristics of mucinous adenocarcinoma of the ovary. *Gynecologic Oncology*. 113(3): 331-334, 2009.
179. 横山 隆、日浦昌道、他：I期卵巣癌における被膜破綻・被膜浸潤・腹腔細胞診の再発危険因子としての意義：現代産婦人科 58(1):49-53, 2009.
180. Teramoto N, Hiura M, et al. The importance of precise pT diagnosis for prognostic prediction of uterine cervical cancer—a single institutional report at a Japanese comprehensive cancer hospital. *Virchows Arch*, 455(4):307-313, 2009.
181. Sonoda K, Kobayashi H, et al. The Level of RCAS1 Expression Is Inversely Correlated With the Number of Vitamin- Positive Stromal Cells in Epithelial Ovarian Cancer *Int J Gynecol Cancer*. 19(5): 838-843, 2009.
182. Yasunaga M, Kobayashi H, et al. Immunohistochemical characterization of mullerian mucinous borderline tumors: possible histogenetic link with serous borderline tumors and low-grade endometrioid tumors. *Human Pathology*. 40(7): 965-974, 2009.
183. Takeshima N, et al. Postoperative adjuvant chemotherapy for node-positive cervical adenocarcinoma. *Int J Gynecol Cancer*, 19(2): 277-280, 2009.
184. Umayahara K, Takeshima N, et al.: Phase I study of concurrent chemoradiotherapy with weekly cisplatin and paclitaxel chemotherapy for locally advanced cervical carcinoma in Japanese women. *Int J Gynecol Cancer*, 19(4): 723-727, 2009.
185. Yanoh K, Takeshima N, et al. New diagnostic reporting format for endometrial cytology based on cytoarchitectural criteria. *Cyto Pathol*, 20(6): 388-394, 2009.
186. Kaku S, Takeshima N, et al. Clinical features of 215 stage I ovarian tumors in Japanese women. *Eur J Gynecol Oncol*, in press.
187. 尾松公平、竹島信宏、他：多発骨盤リンパ節転移を認めた Ia1 期相当子宮頸部腺扁平上皮癌の一例. *日本婦人科腫瘍学会雑誌* 27(3):409-413, 2009.
188. 尾松公平、竹島信宏、他：子宮頸癌、腔癌における骨盤内臓全摘術の有用性の検討. *日産婦東京地方部会誌* 58(2);260-263, 2009.
189. 紀美和、竹島信宏、他：若年性子宮体がんの臨床病理学的検討 *日本臨床細胞学会雑* 48(5):263-267, 2009.
190. 川又靖貴、竹島信宏、他：子宮頸がん治療—私たちのやり方—. *産婦治療* 100(1):83-90, 2010.

2. 学会発表

- 1 勝俣範之：「進行・再発子宮頸がんに対する化学療法」国立がんセンター中央病院 第45回日本癌治療学会総会シンポジウム 10月, 2007. 京都.
- 2 勝俣範之：「難治性卵巣癌の治療」国立がんセンター中央病院 第43回日本婦人科腫瘍学会シンポジウム 11月. 2007. 米子

- 3 植原貴史、恩田貴志、他：
「Cloacogenic adenocarcinoma の 1 例」第 113 回日本産科婦人科学会関東連合地方部会 6 月 3 日、2007 年、東京。
- 4 植原貴史、恩田貴志、他：「内膜症から発生したと考えられる腔腺癌の 2 例」第 42 回日本婦人科腫瘍学会、6 月 28 日～7 月 1 日、2007 年。
- 5 加藤有紀、恩田貴志、勝俣範之、他：「TAM 内服の既往を有する子宮体癌症例の臨床病理学的検討」第 42 回日本婦人科腫瘍学会 6 月 28 日～7 月 1 日、2007 年、東京。
- 6 Ota S, Kamura T, et al.: Controversy of retroperitoneal lymphnode dissection for ovarian cancer. The 53rd Annual Congress of the Japan Section, 2007.6.9-10 Kyoto, Japan.
- 7 Kamura T. Preservation of fertility for the gynecologic cancer patients. The 12nd Seoul International Symposium&93th annual congress Korean Society Obstetrics and Gynecology, 2007.10.5-6 Seoul, Korea.
- 8 Tsuda N, Kamura T, et al. The polysomal RNA from ovarian cancers can stimulate tumor antigen-specific immunity. The 14th The European Cancer Conference, 2007.9.23-27 Barcelona, Spain.
- 9 Nishio S, Kamura T, et al.: Cap43/NDRG1 is a molecular marker of angiogenesis and prognosis in cervical adenocarcinoma. The 14th The European Cancer Conference, 2007.9.23-27 Barcelona, Spain.
- 10 Kamura T, et al. Efficacy of 18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography on detection of gestational trophoblastic neoplasia. The 14th World Congress on Gestational Trophoblastic Diseases, 2007.11.11-14 Fukuoka, Japan.
- 11 笹秀則、高野政志、他：ワークショップ「婦人科悪性腫瘍に対する治療ガイドラインおよび専門医認定試験をふまえた実地診療における問題点と対応」第 17 回埼玉県産婦人科医会婦人科腫瘍研究会 2007.2 月、さいたま市。
- 12 高野政志、他：シンポジウム「卵巣明細胞癌に対する単一施設での治療経験」第 42 回日本婦人科腫瘍学会学術集会 2007.6 月、東京。
- 13 高野政志：シンポジウム「明細胞腺癌 (Clear Cell Carcinoma) の臨床」「卵巣癌治療のコンセンサスー化学療法難治性卵巣癌 (明細胞癌・粘液性腺癌) にかに立ち向かうか？」JGOG セミナー 2007.10 月、東京。
- 14 Sugiyama VE, Takano M, et al.: Clear cell cancers of the ovary: A comparison of four patient groups. The 38th Annual Meeting of the Society of Gynecologic Oncology (SGO) 2007.3 San Diego.
- 15 佐々木直樹、高野政志、他：卵巣癌におけるタキソール (TXL) 耐性獲得に関与する分子生物学的機序の解明第 59 回日本産科婦人科学会学術講演会 2007.4 月、京都。
- 16 吉川智之、高野政志、他：臨床的完全寛解を得た進行卵巣癌において CA125 値の変動は腫瘍の残存と予後を予測できる 第 59 回日本産科婦人科学会学術講演会 2007.4 月、京都。
- 17 Goto T, Takano M, et al.: Clinical significance of immunocytochemistry for PIK3CA as a carcinogenesis related marker on liquid-based cytology in cervical intraepithelial neoplasia. 第 59 回日本産科婦人科学会学術講演会 2007.4 月、京都。
- 18 Takano M, et al. Clear cell cancers of the ovary: retrospective analysis of Japan Clear Cell Carcinoma Study. 第 59 回日本産科婦人科学会学術講演会 2007.4 月、京都。
- 19 佐々木直樹、高野政志、他：卵巣癌におけるパクリタキセル耐性に関与する分子生物学的機序の解明 第 59 回日本産科婦人科学会学術講演会 2007.4 月、京都。
- 20 吉川智之、高野政志、他：初回治療後

- pCRを得た上皮性卵巣癌に対する維持化学療法候補の探索 第42回日本婦人科腫瘍学会学術集会 2007. 6月. 東京.
- 21 山本宗平、高野政志、他：腫瘍性・非腫瘍性子宮内膜における転写因子 Hepatocyte Nuclear Factor-1b 発現の病理学的特徴 第42回日本婦人科腫瘍学会学術集会 2007. 6月. 東京.
 - 22 高野政志、他：前治療抵抗性・再発卵巣癌に対する個別化分子標的薬と Paclitaxel 併用療法の試み 第6回日本婦人科がん分子標的研究会学術集会 2007. 7月. 熊本.
 - 23 菊池義公、高野政志、他：分子標的薬によるトランスレシヨナルリサーチの実践 第6回日本婦人科がん分子標的研究会学術集会 2007. 7月. 熊本.
 - 24 高野政志、他：Stage I 期卵巣明細胞癌に対して Complete surgical staging は必要か？ 第45回日本癌治療学会総会 2007. 10月. 京都.
 - 25 喜多恒和、高野政志、他：前治療抵抗性・再発卵巣癌に対する個別化分子標的薬と Paclitaxel 併用治療の試み 第45回日本癌治療学会総会 2007. 10月. 京都.
 - 26 高倉聡、高野政志、他：卵巣明細胞腺癌の初回化学療法— TC 療法とCPT-P 療法の無作為化第2相試験— JGOG3014 第45回日本癌治療学会総会 2007. 10月. 京都.
 - 27 Takano M, et al.: Comparison of irinotecan and cisplatin (CPT-P) versus paclitaxel and carboplatin (TC), as first-line chemotherapy for clear cell carcinoma of the ovary (CCC): Japanese gynecologic oncology group study. The 15th international meeting of European society of gynecologic oncology 2007. 10 Berlin.
 - 28 Goto T, Takano M, et al.: Clinical significance of immunocytochemistry for PIK3CA as a carcinogenesis related marker on liquid-based cytology in cervical intraepithelial neoplasia. The 15th international meeting of European society of gynecologic oncology 2007. 10 Berlin.
 - 29 篠崎悠、高野政志、他：周術期管理に難渋した巨大卵巣明細胞癌の一例 第72回 埼玉県日本産婦人科学会・日本産婦人科医会学術集会 後期学術集会 2007. 11月. さいたま市.
 - 30 中西透: がん化学療法に関する最近の考え方 Concurrent Chemoradiation 第59回日本産科婦人科学会、4月、2007、京都
 - 31 水野美香、中西透: 腹腔内転移を伴う多発性の良性肺転移性平滑筋腫 (benign Metastasizing Leiomyoma) の1例 日本婦人科腫瘍学会雑誌、7月. 2007.
 - 32 水野美香、中西透: I期子宮体癌542例の検討 第44回日本癌治療学会、10月、2007. 京都
 - 33 伊藤則雄、中西透: 子宮頸癌 FIGO Ib2期の考察 第122回東海産科婦人科学会、2月、2008. 名古屋
 - 34 菊地範彦、小西郁生、他：卵巣癌細胞においてS100A4発現は脱メチル化により亢進し、細胞浸潤能亢進に働く. 第59回日本産科婦人科学会、2007年4月、京都.
 - 35 林 晶子、小西郁生、他：卵巣癌における Class 1 ヒストン脱アセチル化酵素 (HDACs) の発現とその抑制. 第66回日本癌学会、2007年10月、横浜.
 - 36 萩原聖子、齋藤俊章、他：子宮体がんIVb期の臨床病理学的検討, 第59回日本産科婦人科学会学術講演会, 4月14日-17日、2007. 京都
 - 37 長山利奈、齋藤俊章、他：当院で経験した急速な経過をとり予後不良であった若年子宮体癌の2例, 第59回日本産科婦人科学会学術講演会、4月14日-17日、2007. 京都
 - 38 岡留雅夫、齋藤俊章、他：婦人科手術後に発生した肺塞栓症の予防方法による発生率の推移, 第59回日本産科婦人科学会学術講演会、4月14日-17日、2007. 京都.
 - 39 萩原聖子、小林裕明、齋藤俊章、他：子宮頸部 villoglandular adenocarcinoma の細胞像. 第46回日